

シグマ研究委員会 核構造・崩壊データ専門部会

核構造 WG サブ WG 会合議事録

日 時 昭和 55 年 2 月 5 日 9:00 - 17:30

6 日 9:00 - 17:30

場 所 東海研 研 2 - 322 会議室

出席者 宮野, 大矢(新潟大学), 田村(原研)

検討資料 A=126 の ENSDF ファイル

GTOL 出力

LOGFT 出力

A=126 各種文献

議 題

1. これまでに作られている A=126 の ENSDF ファイルについて, GTOL, HSICC, LOGFT などのプログラムを通してある。

a. GTOL の結果からのレベル・エネルギーは各データ・セットに反影させてある。

b. GTOL からの  $\beta$ -分岐比を用いて  $\log f_t$  が計算してある。

2. Adopted levels, gammas の作成

個々のデータ・セットから Adopted levels, gammas に採用すべきデータカードが用意できているので, 主として半減期, スピン・パリティ,  $\mu$ , Q, B(E $\lambda$ )に関するカードを準備すればよい。

$^{126}\text{Cd}$ ,  $^{126}\text{In}$ ,  $^{126}\text{Sn}$ ,  $^{126}\text{Sb}$ ,  $^{126}\text{Te}$ ,  $^{126}\text{I}$ ,  $^{126}\text{Xe}$ ,  $^{126}\text{Cs}$ ,  $^{126}\text{Ba}$  の各レベルに対してレベルのスピンのパリティの検討を行った。